

STT072-P11

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

PALSARにより検出された十勝岳の局所的地殻変動

Local Deformation at Mt. Tokachi detected by PALSAR Interferometry

奥山 哲^{1*}, 村上 亮¹

Satoshi Okuyama^{1*}, Makoto Murakami¹

¹北海道大学附属地震火山研究観測センター

¹ISV, Hokkaido Univ.

十勝岳は日本の活火山のうち、ランクAに分類される特に活動的な火山である。過去100年間の主な噴火イベントは、1926年(大正噴火)、1962年、1988?89年であり、2004年にもごく小規模な噴火が観測されている。近年、噴煙および地震活動共に低調である一方、火口付近のGPS繰り返し観測では2006年以降基線の伸びが観測されている(札幌管区気象台, 2009)。PALSARを用いた干渉解析によってもディセンディング軌道では2006年?2008年に局所的な隆起が観測されている(高橋他, 2008)。報告されている変動源の推定位置は大正火口直下のごく浅い部分である。GPSの結果によると2008年以降も基線の伸びは観測されており、活動は依然として続いていると考えられる。我々は2006年から2009年までのPALSARデータを解析し、2008年までのディセンディング軌道干渉画像に見られた変動パターンが2009年も続いていることを確認した。さらに今回の解析によりアセンディング軌道干渉画像からも衛星に近づくセンスの変動パターンが得られ、観測された変位が隆起の成分を持つことが確かめられた。講演ではこれらのデータを用いた2次元解析および観測結果を説明する変動源の推定について報告する。

キーワード:干渉SAR,火山,十勝岳

Keywords: SAR, Interferometry, Volcano, Mt. Tokachi